

海溝型地震の長期評価に関する資料

前回の長期評価部会・海溝型分科会（第二期）・長期確率評価手法検討分科会（第二期） 合同会(12/16)の宿題

【時間予測BPTモデルの式】

- ① γ が過小評価にならないように設定する
→第6回長期確率評価手法検討分科会（第二期）(1/24)にて検討した結果を報告

【歴史史料データ（宝永地震・安政地震）に基づく隆起量データのデータ確率分布】

- ②データ確率分布は基本 1σ 、万変記、土佐國は、この時代の測定誤差は久保野家と同等になると想え、確率分布をもっと滑らかにしたパターンも用意
→今回作成

【昭和南海地震の隆起量データのデータ確率分布】

- ③データ確率分布は、歴史史料よりは計測誤差が小さいとも考えられるので 2σ のパターンも用意
→今回作成

【報告書改訂イメージ】

- ④現状のものとは違うので「時間予測を用いたBPT」という名前を修正
→第6回長期確率評価手法検討分科会（第二期）(1/24)にて検討した結果を報告
- ⑤確率の数字を確認してから文章についても誤解されないように検討する
→今回試算値があるので再度ご議論いただきたい

今回の論点メモ

【時間予測BPTモデルの式】

① γ の設定の確認 →**本会議参考資料4-1,4-2,5**

【歴史史料データ（宝永地震・安政地震）に基づく隆起量データのデータ確率分布】

②データ確率分布は基本 1σ 、万変記、土佐國は計測誤差が久保野家と同程度にあるとした分布に
するということでよいか？ →**本会議参考資料5**

【昭和南海地震の隆起量データのデータ確率分布】

③データ確率分布は 1σ でよいか？ →**本会議参考資料5**

【発生確率の試算値】

④試算結果の確認 →**本会議参考資料5-2**
⑤ β の設定の確認 →**本会議参考資料5**

【報告書改訂イメージ】

⑥今回の新たな手法は「すべり量依存BPTモデル（SSD-BPT）」という名称でよいか？ →**本会議参考資料6**
⑦両論（すべり量依存BPTと最尤推定BPT）併記でよいか？ →**本会議参考資料6**
⑧報告書「長期的な地震発生確率の評価手法について」は追補とすることでよいか？ →**本会議参考資料7**